



NO. 690
発行
10・5月10日
国鉄労働組合
新潟地方本部
発行責任者
関川 和彦
編集責任者
教 宣 部



解決案を全体で承認



第78回臨時全国大会開く 4月26日・社会文化会館



高橋委員長のあいさつ、来賓には、民主党・社民党・国民新党・公明党の代表があいさつし、遺族からもあいさつがありました。

限られた日程の中での大会でしたので、代議員からの発言・特別発言も含めて、六名の方々が発言、ほとんどが本部分針を指示し全体で団結していこうという内容でした。

わたしなりに
精一杯闘ってきた



闘争団員の遺族の方からあいさつがあり「団員から解決案が示された時、実感としてなかった。二十三年間の闘いで病気になる、そして他界した。二度、首切りされた家庭は未収入の状況になった。親戚から闘いをやめると言い続けられた。厳しい生活環境の中で、子供にもすごい影響があった。父親の職業欄への記入に困った。収入が無いため生活保護、そのため子供へのいじめがあった。精神的な病気を抱えながら自分が仕事を続けていかなければならない。子供と共に、わたしなりに精一杯闘ってきた」と涙ながらのあいさつで

代議員からの発言が五名で特別発言では神宮議長から発言がありました。

発言・討論

四月九日の和解案を機関決定する大会だ。受け入れ受託を承認する。多くの人々の努力から引き出されたもの。労働組合など多くの支持があった。闘争団の物販支援をしてくれた仲間皆さん、上京行動、宣伝行動など、それを支えた、家族の皆さん、多くの行動・運動・連帯があったから解決へなつたと思う。この支援、連帯にこたえていく運動を続けていくこと。韓国鉄道労働者も国労の解決を喜んでいる。最終的に解決していくため取り組んでいく。国労にいくことに誇りを持って頑張っていく決意だ。

全体の団結を図る

第七十八回臨時全国大会が東京・社会文化会館で十三時三〇分から開催されました。

与党・公明党、四党の解決案を政府が、受け入れ、四月十二日に中央執行委員会で受け入れを表明しました。

田中副委員長の開会あいさつは「解決案を四月十二日に受け入れた。解決案について全体で確認し解決に向けてがんばっていきましょう」とあり、この間の闘いに到達点を全体で確認し今後の闘い

について意思統一していくこと。そして大会で全体の団結を図ることを訴えていました。

資格審査では、代議員七十二名全員の出席を確認、大会役員、すべて出席。議長団に、九州の野田代議員、東京の中村代議員が選出されました。

野田議長は「一九八七年から二十三年間になる。二度目の解雇から二〇〇〇年が経過した。この間どうしても解決できなかった。今、解決を迎えることができた。臨大で全面解決を皆さんと共に成功させていきたい」とあいさつがありました。

来賓あいさつから

民主党～23年間という大変長い闘い・苦しい場面が多くあったと思う。しかし、解決の局面を迎えることができた。四党案を政府が受け入れた。JRへ200名の雇用の要請を政府に申し入れた。すべての問題も含めて取り組んでいく。

社民党～政府ともめた点 JRへの採用責任について政府ができないと主張したこと 解決金が高いこと。しかし人道的に政治的解決をしなければならぬと厳しい交渉の末、政府は受け入れた。23年間の闘いと支援、支え続けてきたことを考えると不満があるが早期解決を考え判断した。

国民新党～財務省は1回目は、解決金、1580万円だったが、幹事長として申し入れた。それから2200万円必要だと追及した。財務省は2200万円の回答を出した。四党が命がけで出した解決案だ、それを理解してほしい。

公明党～23年間の闘い、人道的・人権の立場から一緒にやってきた。大きな山を越えた。一人ひとりに23年間の思いがあると思う。俳句を作った「さくらさく いくとせこえて さくらさく」完璧な春だとは言えないが～。



四党案を政府が受け入れた。二十三年間、闘い続けてきた闘争団支援共闘団体、他界された五十三名の闘争団員など多くの仲間が今日の日を待ち望んでいた。

二〇〇六年の大会から、四者四団体は、団結を強化し政治解決へ強化された。八月の政権交代があり具体的解決へ進んでいった。四者四団体が解決案を受け入れた。

今後の闘いで、JRへ二〇〇名の雇用確保を誓ってお願いしたい。各地方での報告集会在開催されるが本部へ、パンフ・礼状の作成を要請する。安全問題からの観点からこの闘いを総括してほしい。



二十三年間の闘いは長すぎた春だが歴史的な解決だ。引き続き全力で取り組んでいくこと。当面する課題の方針書の中で「JR内の組織的内容」について削除を求める。

政治解決を、今後の闘いへ生かしていかなければならない。世論を背景にしながら、JRへの雇用確保を求めていくこと。国労を地域の仲間支援団体、共闘会議などの支えから国鉄闘争を取り組まれたと思う。こ



の闘いを内外へも波及させていくこと。支援共闘会議全体を引き続き運動を継続していくこと。職場・地域からの闘いのスタートとしていく。

もうひとふんばり、正式解決へがんばっていかねばならない。闘争団の年齢は平均五十六歳になった。雇用問題が大きな課題になっている。

JRへの雇用確保が重要だ。会社は最高裁で確定している、言っているが、雇用を求めていく。JRへの雇用については政府の対応が大変重要になっている。雇用を求めていく。本部の指導を要請する。

JR不採用事件があったからこそ共闘組織の発足、支援団体、など支援が大きく広がった。国労の方針書の中の「JR産別の企業内組合」について、なぜ臨時大会で提起するのか、残念だ。



二十三年の闘いで解決となった。一〇四七名から九六六名が三年間清算事業団に入れられ、一九九〇年に解雇された。労働委員会・裁判闘争ILOへの提訴・大衆行動など展開してきた。

三十六闘争団の結成で自治体制・生活基盤をつくった。アルバイト・物資販売など多くの課題があったが全体で頑張ってきた。厳しい生活の中で病気やケガがあった。全国連絡会の結成、国労組合員からカンパ・支援・共同行動が展開された。本営に国労組合員で良かったと思う。多くの仲間が助けられた。家族・親戚の中でも厳しい状況が続いた。しかし解決に向けて一枚岩になって団結した。政治解決へ大きく進んでいる。

二十三年間、失った日々は取り戻せないが解決によって人生の再出発ができると思う。引き続き雇用確保を求め運動を進めていく。

書記長集約 是要点だけ

濱中書記長は「全体で六名の発言があった。すべて政府案受託という発言だった。雇用問題は求めていく。各地方での、支援団体への報告について、本部はパンフを作成する。方針書の「JR企業内」については引き続き全体で議論していく。弱き立場のものを守っていく。政府案への確認・今後の組織展望をしていく」とありました。

限られた日程でしたが、全体が団結し引き続き具体的解決に向けて意思統一されました。最後に高橋委員長長の団結ンパロウ三唱で、大会を終了しました。



高橋委員長あいさつ



いかなる攻撃にも負けない

和解が具体的実現を迎えることができた。23年間の紛争事件は早期解決に向けて全体など御礼を申し上げたい。JR不採用問題の解決案が提示。政府が受け入れ、中央執行委員会で受け入れを表明。四党案～政府が同意した解決案を四者四団体が正式に、解決案に同意を表明した。

23年前の政府答弁について～国会決議を「ホゴ」にされ、7600名がJRに採用されなかった。それからの23年間の闘いは苦しい闘いとなった。戦後最大の解雇だった。中労委で勝利したが、最高裁判決で2対3となった。しかし今日まで闘ってきた。ILOの提訴・政府に対して早期解決を求める自治体意見書の採択が全国で出された。

23年間の闘いの中、家族を犠牲にしてきた背景があった。人道上での解決を訴えてきた。政治解決に向けて、大衆行動・世論喚起など、さまざまな闘いを進め、24年間を超えさせない、解決をめざし闘いを強化してきた。

政治解決は人道的～与党・公明党による解決案。JRに採用された国労組合員は厳しい労働条件の中で仲間を守る信念、連帯し支えてきた。家族と共に総団結し苦難の中でも闘い続けてきた。

国労64年間の闘いは、いつも政府に対しての闘いだった。この闘いは日本の労働運動史に語り続けられるものだ。今後さらに発展していく。闘争団の状況から早期解決を判断した。

国労は、いかなる攻撃にも負けないで闘ってきた。この問題解決により国労の力を分散させない。労働条件改善の闘いへ強化して引き継いでいかなければならない。他労組への拡大もめざしていく。労働者の解雇を許さない闘い、支援共闘の闘いの結合、継続、組織の団結が問われてきた。多くの支援共闘・労働組合と団結して闘い続けることによって必ず勝利することを実践した。歴史的教訓だ。

政治解決・解決案を受け入れたこと、委員長として今、あらたな出発点となった。未来に向かって歩いていく。総括し確信と展望を持って運動を前進させる。

雇用をめぐる問題～全力を尽くして運動を進めていく。23年間の闘いに対し、物心両面にわたって、中央共闘・連帯する会・政党・地域の支援団体など、多くの仲間から心から感謝を申し上げます。

